は、自社のグローバル展、「1972年から海外出して以来、幾度となく況にあったが、強い意志てきた。一朝一夕にはグ化は図れない」と指摘。つに「グローバル人材の上げ、昨年から開始した全員を海外の現場研修に遣する「海外短期トレー」、実務経験を積んだ入年目の技術者を海外派遣外実務派遣制度」を紹介。設会社を代表して市川氏が高くても当社を選んでよう企業力を高めることていく。その第一歩が社とりが経営的な感覚を持に取り組むこと」と述べ会社を5つの部門に分け、損益が把握できる仕組みことで、社員の自主的なことを促していることを。

熱心に耳を傾ける参加者

術者の派遣業を展開する「人材派遣しているゼネ小規模工事の請負などアシング的な仕事も引き受が、顧客には、やれない、くない、"やりたがらなつの仕事がある。これら対応することで、当社にれば何とかなるという会している」とのビジネスいた。

板谷氏の「どの会社も選施策や手法は戦略ではなつくらないと勝ち残れな指摘に、他のパネリスト た。

業で実行に移されていくか告げていかなければなら

990年代初頭、多くのゼはバブル景気に沸く一方員の退職や理系学生の建設に頭を悩ませていた。そに組合側が完全週休2日制を掲げ、一部の大手ゼネコ員側にその導入を検討してことが伝わると、制度導入に中堅ゼネコンクラスに拡大した。

は当時以上に問題意識が官共有されている。だからこ団体のリーダー的立場の企行事例を作ってほしい。てそれが伝わることによ工程表の達成に向けた流れがつき強まることを期待。（新）

グランプリに恩地氏『リング』

丸の内ストリートギャラリーフォトコンテスト2014

三菱地所と彫刻の森芸術文化財団は、丸の内仲通りに彫刻を展示する「丸の内ストリートギャラリー」の関連イベント「丸の内ストリートギャラリーフォトコンテスト2014」の受賞作として、グランプリ賞の恩地俊輔氏「リング」など20作品を選定した。同コンテストは「アートのある丸の内の風景」をテーマに、丸の内仲通りや一号館広場にあるアート作品を入れた街の風景写真を募集した。

審査員を務めたプロ写真家のミゾタユキ氏は、グランプリ賞の「リング」について、「作品のタイトルどおり、写真の中にあるアート作品『SPIRAL・SIKAKU』（作者：木戸修）と大きく広げた左手の薬指にキラリと光る太陽の輝きがリングのようです。アート作品のフォルムからイメージされた独創的なアイデアが写真にインパクトを与え、薬指を輝かせたことでとても充実した幸福感が伝わってきます。このリングは人とストリートを結びつけるリングのようでもあり、丸の内へ誘い込まれるような不思議な魅力を合わせた作品です」と選評で述べている。

三菱地所と彫刻の森財団

今回は20作品が各賞に選ばれ、22日まで東京都千代田区の丸ビル3階回廊で入賞作品発表展を開催している。

グランプリ賞の「リング」

その他の入賞作品と受賞者は次のとおり（敬称略。＊はニックネーム）。

〈準グランプリ賞〉▽見護る眼差し（西原月邦）▽街をのみ込んで（kimito akano＊）

〈オーディエンス賞〉▽pumpkin silhouette（島田賢太郎）

〈写ガール賞〉▽成人の日の出立（こばちゃん＊）

〈丸の内賞〉▽丸の内シエスタ（senon＊）▽煌めく夜に（びらちゃ＊）▽飛び入り参加（hoso＊）

〈三菱一号館美術館賞〉▽仲良し（xxxなみ＊）▽ラストシーン（しょうこパパ＊）

〈彫刻の森美術館賞〉▽ヒッププロポーション（旅すけはる＊）▽天に向かって（坂田清信）▽Urban wild（Uriel＊）▽ビルの谷間で演奏会（西堀寛）▽丸の内のマーメイド（中嶋正和）▽北風たなびく（一宮広和）▽新年準備万端（茂垣貴子）▽水の軌跡（松木剛）▽月の光を浴びて（オシャリ＊）▽木漏れ日を浴びて（のんちゃん＊）。

準グランプリ賞「街をの

難し」

平成27年3月10日
建設通信新聞

マイスター38人を認定

三井住友建設の東京土木支店と東京建築支店は、東京都中央区の本社でコンストラクション・マイスター（優良技能者）の合同認定式を開いた。

土木15人、建築23人の計38人のマイスター認定者に三宅悟執行役員東京土木支店長、篠原邦夫常務執行役員東京建築支店長がそれぞれ認定証を手渡した＝写真。

認定式の冒頭、新井英雄取締役専務執行役員土木本部長は、「業界全体が追い風の中、当社も受注、完工、利益とも着実に上昇気流に乗っている。今後ともマイスターの方々に現場で活躍してもらい、真栄会各社との絆をより一層強めることで、ともに発展していくことを心から望んでいる。認定者には現場の安全確保、品質向上、原価の低減にさらにまい進してほしい」とあいさつした。

佐々木汎真栄会連合会会長は、「真栄会は日本一のモノづくり集団を目指している。認定された方々には、現場で実力を発揮し、建設業従事者の社会的評価向上のためにも頑張ってもらいたい」と認定者にエールを送った。

三井住友建設東京土木支店・東京建築支店

CIC日本建設情報センターが解説する

施工管理技士の① 受験対策

5年前より合格率が2倍増

「39.5%」この数値、なにかわかるだろうか。正解は、2014年度の1級土木施工管理技士の実地試験の合格率である。数値を見て、やさしいまたは難しいと思うか、捉え方はさまざまであろう。

ただ、過去5年で最も合格率が低かった平成22年度と比較すると2倍以上も上昇しており、近年では高い数値といえる。この傾向がしばらく続くのであれば、今が試験に挑戦する絶好の機会なのである。技術者不足が叫ばれて久しい昨今、施工管理技士はどの企業ものどから手が出るほど手にしたい人材といっても過言ではなく、建設業界に身を置き受験資格を持つのであれば施工管理技士の資格取得に挑戦することをおすすめしたい。

過去5年の合格率と今年度スケジュール

試験区分	対象年度	2010年度	11年度	12年度	13年度	14年度
学科試験	受験者数	39,733	34,241	37,703	32,639	33,130
	合格者数	21,066	13,959	20,674	19,568	19,389
	合格率(%)	53.0%	40.8%	54.8%	60.0%	58.5%
実地試験	受験者数	30,864	26,617	27,675	29,182	28,010
	合格者数	5,720	5,544	9,585	10,299	11,064
	合格率(%)	18.5%	20.8%	34.6%	35.3%	39.5%

2015年度1級土木施工管理技術検定試験 申込期間
2015年4月1日(水)～15日(水)
実施日(学科試験) 2015年7月5日(日)、(実地試験) 2015年10月4日(日)

そこで、このコラムでは次回より5回にわたり、施工管理技士の受験対策講習会を開催し続けて17年、毎年1万人以上の受講生に選ばれているCICの受験ノウハウや試験傾向など試験に役立つ情報を公開する。その事前準備として今回はなぜ受験において試験傾向を掴むことが重要なのかを説いていく。

なぜ傾向を知る必要があるのか？

なぜ、試験傾向を知る必要があるのだろうか。その理由は2つある。

1つ目の理由は試験傾向を研究することにより、無駄なく学習を進めることができるということ。もう1つは施工管理技士試験の出題範囲は幅広く、この範囲を漫然とくまなく勉強していたのでは、いくら時間があっても足りないからである。試験傾向を掴むことにより習得しなければならない重要論点を絞り込み、効率的に学習を進めることができるのである。

施工管理技士試験は勉強のポイントさえ外さなければ決して難しい試験ではない。多忙な受験生が最小の努力で、最大の結果（合格）が出せるよう情報を公開していくので学習に役立ててほしい。

（CIC日本建設情報センター　鮎川　洋介）

ポイントを外さなければ難しくない